

熊本県立上天草高等学校 令和2年度(2020年度)学校評価表

1 学校教育目標

「くまもとの教職員像」、「令和2年度(2020年度)県立中学校・高等学校における教育指導の重点」、「令和2年度(2020年度)学校安全・安心推進課取組の方向」「令和2年度(2020年度)体育保健課取組の方向」、「令和2年度(2020年度)人権教育取組の方向」等を中心に据え、生徒一人一人の個性を伸ばしながら、「認め、ほめ、励まし、伸ばす」教育の実践をとおして、社会を構成する一員としての必要な人間力【智・徳・体】を身につけるために、思いやりの心(恕)を持ち克己精励する生徒の育成を目指す。

2 本年度の重点目標

- 新型コロナウイルス感染拡大防止への適切な対応
- 「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力化型)」の推進  
《育てる人材像》  
①上天草をより深く理解し、誇りに思い、愛する人材(知識・技能を基盤として)  
②新しい上天草創造のために思考・行動・表現し、支える人材(思考力・判断力・表現力等)  
③上天草と自らの夢の実現のため学び続け、夢を追い続ける心豊かな人材(学びに向かう力、人間性等)
- 「スーパーグローバルハイスクール事業」「総合型コミュニティ・スクール」  
「県立高校魅力創造発信事業」の推進

- 健康教育・安全教育・環境教育の強化
- 学習指導の充実
  - 新しい学習指導要領の理念を意識した授業実践(生徒の実態を把握した個々に応じた授業展開)
  - 研究授業の積極的実践(相互授業参観や効果的な職員研修等の実施)
  - 自学自習の習慣化及び読書指導(朝読書の充実)による基礎学力の定着
- 生徒指導の充実
  - マナーの徹底(正しい制服着用・頭髪、元気な明るい挨拶、正しい言葉遣い)
  - 部活動の活性化(部活動加入率アップ、計画的・継続的指導の充実)
  - 生徒会活動の活性化(自主・積極的活動の推進)
- 進路指導の充実
  - 雇用環境の急激な変化に対応する進路情報の提供及び面接及びガイダンス指導の充実
  - 大学入試改革の動向を見据えた進学資料及び最新の就職資料提供並びに外部講師等による講演会や各種説明会等の機会拡充
  - インターンシップ、ボランティア活動等の体験活動への積極的参加
- その他
  - 人権教育の視点に立った特別支援教育・適応指導の充実(組織的・継続的指導)
  - 広報活動の充実(HPの更新・広報誌・学校説明会等による情報発信の充実)
  - 体育大会、文化祭、上天草バザール等の学校行事の充実(地域や育友会との連携)

評価基準 A:5.0~4.0 B:3.9~3.0 C:2.9~2.0 D:1.9~1.0

3 自己評価総括表

大項目	評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	成果(●)と課題(▲)
	小項目	評価の観点				
学校経営	人間力、恕、自律の育成	◇確かな学力の育成に基づくキャリア教育	○授業第一主義・分ける授業の実践 ○各部会・学年会・教科会による多方面からの学力充実	・生徒の習熟に応じたきめ細かな授業展開 ・ICT等の機器を活用した授業の実践 ・部会・学年会・教科会の定例実施と連携 ・適切な予習・復習指導 ・課題の計画的配付	A	●1,2年生の英語の授業において習熟度別授業を行い、習熟に応じた授業が実施できた。 ●ICT機器が充実し、授業や学年全体での講義、研究成果発表会などの場面で活用が見られた。 ▲課題の取組み状況に差があり、継続して指導する必要がある。
		◇主体的に学び、学び合う人材育成	○部活動への加入者の増加と充実(加入率75%) ○ボランティア活動の充実(月1回以上のボランティア活動への参加と参加者率60%以上)	・各学年で部活動加入を推奨する。 ・部活動の計画的・継続的指導の充実 ・ボランティア活動への積極的呼びかけ ・本校主催のボランティア活動実施		B
	学び合い高め合い支え合う職員集団	◇資質向上 ◇職員研修の実施	○専門性・教科指導力の向上 研究授業の積極的実践 ○職員研修の計画的実施と内容の充実(各定期考査期間に1回以上、長期休業中に1回以上実施)	・校外研修会への積極的参加 ・研究授業の積極的実践 ・放課後、長期休業中を活用し、計画的に職員研修を実施する。 ・研修内容を精選し、喫緊なものに継続的に必要な研修を実施し、職員の資質向上を図る。	A	▲コロナ禍の中、公開授業などが中止される学校が多く、参加が難しかった。 ●職員研修は、生徒理解、人権教育、進路指導に加え、ICTの活用など充実した研修が出来た。
	保護者(育友会)との連携・協力	◇育友会活動の活性化	○育友会総会や研修会・学校行事への保護者の参加を増やし、保護者の学校への関心を高める。(総会出席率85%以上)	・育友会役員の積極的働きかけ、クラス担任の協力 ・育友会新聞・学校新聞による育友会活動の広報 ・地域行事への育友会の参加	A	●コロナの状況を見ながら、総会なども代替手段で連携をとることができた。育友会役員会を柔軟に開催し、メールなどにより周知する工夫を通して、長距離走大会炊き出しを実施できた。 ▲緊急時の共通理解のはかり方や、広く意見を取り入れる方法など更なる改善が目指される。
	業務改善・働き方改革	◇超過勤務時間の縮減及び年休取得日数の向上	○月の超過勤務時間の年平均4.5時間以上の職員数が10人以下を目指す。 ○年休取得日数平均が12.2日を目指す。	・毎月の状況を職員に周知し、意識の向上を図るとともに、超過時間の多い職員の業務の見直し等も行う。 ・会議や研修の精選及び実施日・実施方法を見直し、1日単位だけでなく、時間単位も含めて年休取得を促す。	B	●月の超過勤務時間については、年間平均時間及び45時間超過の人数は昨年度より減少した。 ▲年休取得については、夏休み短縮の影響もあり、昨年度より年休取得日数は減少した。会議や研修、業務の精選を行ない、年休を取得しやすい環境をつくる。

学力向上	授業の充実、分ける授業	◇研究授業、授業公開	○年に2回公開授業、研究授業を実施する。アンケートを通じて、指導力の向上を目指す。	・公開授業週間、研究授業の積極的な活用（各教科年1回以上の研究授業と反省会の実施）	A	●新型コロナウイルス感染防止のため、1学期には公開授業を実施できなかったが、2学期に研究授業を実施し、各教科で指導法などについて話し合いができた。
		◇指導力の向上 ◇授業評価と授業改善	○生徒の学習意欲を高める授業を目指す。 ○学校評価アンケートにおける生徒の肯定的評価70%以上を目標とする。	・教科会を利用した授業研究 ・個別指導等による生徒の実態の把握 ・スーパーティーチャーの積極的活用 ・教科横断型の「聞く」「話す」「表現する」プロジェクトの活用 ・授業実践シートの作成	B	●授業に対する生徒の肯定的評価は96%であり、さらに学習意欲を高める授業改善に取り組みたい。 ▲教科横断型の取組みをもっと充実させたい。
	基礎学力と学習習慣	◇家庭学習の習慣化	○家庭学習の習慣化を図る。学校評価アンケートにおける生徒の肯定的評価50%以上を目標とする。	・家庭学習時間調査による生徒の実態把握 ・ホームルーム等での周知と啓発 ・classiを活用した課題の配信 ・FORMSを活用した課題の配信	A	●定期考査毎に家庭学習時間調査を実施した。2学期期末考査前には各学年目標時間を設定し、1学期末比較で約25分、前年で比較で約35分学習時間が増えた。 ●休校中は、多くの職員がClassiやFORMSを活用し、課題の配信等を行うことができた。また、ZoomやYoutubeを活用した学習も一部実施した。 ●アンケートによる生徒の肯定的評価は53%であった。
		◇図書館を活用した人材育成 ◇情報リテラシーの向上	○朝読書の徹底 ○生徒が利用しやすい図書館にする。 ○授業における図書館の活用（各授業で積極的に図書館内の資料・情報を活用する）	・図書館での朝読書 ・積極的に広報活動を行う。（図書便り、文化祭） ・毎月図書館便りを発行する。 ・生徒のリクエスト等による新刊の積極的入荷を図る。 ・教科の学習内容と連携した展示の工夫や関連書籍の購入を行う。	A	●新着本を色刷りで教室掲示して紹介することで、生徒の興味関心を高めることができた。 ●コロナのため、他の市町村から相互貸借ができないと断られたもの以外は、おおむねリクエストに応じることができた。 ▲現状としてリクエストをする生徒に偏りがみられる。広く生徒から希望を集められるよう改善していく。
キャリア教育（進路指導）	系統的キャリア教育	◇キャリア教育体制の確立 ◇勤労観・職業観の育成	○3か年を見通した進路指導計画を作成し、確実に実践する。 ○外部機関と連携し勤労観・職業観を醸成する。	・インターンシップや企業見学、進路別講演会、マナーアップ講座などの実施 ・オープンキャンパスへの参加や大学出張講座、上級学校説明会の実施	A	●コロナ禍ではあったが、感染予防対策を講じて出張講座やインターンシップ、面接練習会、各種ガイダンスを実施し、生徒の進路意識を高揚することができた。
		◇3年間の系統的指導	○生徒一人一人の希望や適性にあった進路検討を行う。 ○模擬試験等を活用した継続的指導を行う。	・学習習慣や学力定着を把握するための模擬試験を実施し、分析・研修会を行い、学年や教科で連携した指導を行う。 ・キャリアパスポート等を活用し、自己理解を深め進路決定へと繋げる。	A	●進路希望調査を定期的実施して面談で活用し、指導に活かすことができた。 ▲キャリアパスポートの学年に応じた計画的活用ができなかった。また、内容に関しても改善が必要である。 ▲職員間で模擬試験の振り返りの時間を十分に取ることができなかった。
	進路意識の向上	◇学年に応じた進路指導	○幅広い進路に対応できる基礎学力及び応用力を身につけさせる。 ○職員研修を実施し、進路指導の実践力を向上させる。	・面接指導や小論文指導など生徒のニーズに応じた個別指導を行う。 ・模擬面接指導、模擬試験、課外授業などを定期的実施する。 ・進路に関する情報を学校全体で共有し、生徒・保護者に正確かつ速やかに提供する。	A	●受験指導は学年を超えて全職員の協力を仰ぎ、生徒のニーズに概ね応えることができた。 ●キャリア教育、小論文講座などの職員研修を実施することができ、スキルアップに繋がった。 ▲模擬試験の日程や内容など見直しが必要である。
		◇面談（進路相談）の充実	○3年生の進路決定100%を目指す。	・担任、キャリアサポーターなど幅広い職員による個人面談の実施 ・個人面接等を充実させ、生徒理解を深め、適性や長所等を把握し、進路面で適切なアドバイスを行う。	A	●キャリアサポーターと情報を共有しながら面談を実施し、生徒の状況把握に努め、適切な指導を行った結果、早期に就職100%内定を達成することができた。
生徒指導	生徒の規範意識	◇基本的な生活習慣の確立と社会人の基礎となる整容指導	○7回の服装・頭髪検査中、1回でも不合格者を0にする。	・生活委員会と連携し生徒への呼びかけや事前告知と整備の促進 ・社会人として必要な資質を進路部と連携し面接指導等を通して理解させる。	A	●コロナ禍4回の検査を実施した。生活委員の呼びかけや事前告知をすることで不合格者を昨年の同時期から比較すると17件から10件と減少した。 ▲現時点では不合格者を0にできていない。教育方針の理解度の低さが今後の課題である。
		◇各種法令・法規に基づいた指導の徹底	○特別指導、いじめ、交通事故・違反、貴重品の盗難等の件数を10件以内とする。	・法令順守の重要性と違反等が何故いけないかをHR・集会時等で繰り返しし諭す。 ・学年と協力し定期的に巡回指導を行う。 ・定期的な登下校指導を行う。	A	●特別指導0件、盗難1件、いじめ3件、交通事故1件であり目標の10件以内におさめることができた。また、スタントマンを利用した交通教室を実施することができ意識の高揚がはかれた。 ▲10件以内におさめているが、加害者（爆竹・天井穴・網戸）が特定しづらい事案への対応が今後の課題である。
	生徒会活動の充実	◇自発的な生徒会執行部の活動	○生徒会主催行事等において生徒が自発的にアイデアを出し企画・運営を行う。	・計画的な準備と準備作業時の教師側の積極的な関わり。	A	●担当職員で分担し、生徒への声かけやサポートを行うことができた。 ▲目安箱の設置など、生徒が取り組みたいことと学校内で実現可能なことに差があり、実現できなかったものもあった。
同和問題を中心とした様々な人権問題の理解	◇同和問題学習LHR ◇様々な人権問題学習 ◇差別を見抜き、差別を許さない人間の育成	○各学年単位で同和問題に関する認識を深める。 ○学年ごとに、「水俣病をめぐる人権」、「ハンセン病回復者の人権」について理解を深める。 ○生徒アンケート肯定的評価80%以上を目指す。	・LHR指導案について人権教育推進委員会で内容を検討し、各学年単位で学習指導案を作成する。 ・熊本県教育委員会作成の人権教育推進資料や県の事業、自治体作成資料を利用する。 ・人権教育推進委員会で、人権LHR後の振り返りを行う。	A	●LHR実施前に人権教育推進委員会で計画した内容について学年会で協議し、学習指導案の作成を行った。終了後も学年からの意見や反省を持ち寄り、振り返りを行ったことで次のLHRへ繋げる事ができた。 ●生徒アンケート肯定的評価で90%を超えることができた。 ▲学年会で内容を協議する際、推進委員会から重要ポイント等を示すと協議しやすかった。また、その学年の状況にあった題材を選択できれば更に授業効果が高まると思われる。	

人権教育の推進	職員の人権感覚の醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身近に起こっている人権問題についての研修を実施する。</li> <li>○校外研修へ積極的に参加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同和問題を中心に据えた職員研修の実施</li> <li>・校外研修への積極的参加を促す。</li> <li>・熊本県教育委員会作成の人権教育推進資料の積極的活用</li> <li>・関係法令・施策等の理解、当事者に学ぶ研修等を通して、基本的認識の深化や実践的指導力の向上</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>●上天草市より講師を迎え、同和問題を中心とした職員研修を実施することができた。地域性や本校の現状に即した講演であり、人権教育に関する知識を深めることができた。</li> <li>▲コロナ禍のため、校外研修に代わり、Web会議による研修が多く実施されたが、職員向けに復講する機会を設けることができなかった。</li> </ul>	
	命を大切にすることを心がける指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇自他の生命を尊び、大切にしていることとする態度の養成</li> <li>◇自らの在り方生き方を学ぶとともに、夢や目標をもち、その実現に向けて努力する態度の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○すべての教員が学習活動とおし「命を大切にできる心」を育む指導を行う。</li> <li>○行事等に、生徒が自尊感情を高め、自己実現を図るための在り方、生き方について学ぶ視点を入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各々の教科指導において関連する学習内容を確認し、年間を通じ人権感覚を意識した学習指導を行う。</li> <li>・福祉実習やボランティア活動、地域貢献活動等を通じ、生命、自然、地域に対する畏敬の念を高める。</li> <li>・生徒が取り組んだ人権ポスターや標語について地域や家庭に紹介する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「命を大切にできる月間」に全校生徒が人権標語に取り組んだ。作品については、本校HPで地域や家庭に紹介することができた。</li> <li>●ボランティア活動や様々な実習を通じて生徒自らが自尊感情を高めることができた。</li> <li>▲一定の期間や科目だけでなく、全ての学習活動において、年間を通じ人権感覚を意識した学習活動を行うことも必要である。</li> </ul>
いじめの防止等	いじめの早期発見、相談体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇職員の人権管理意識の高揚</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の変化に敏感になる。</li> <li>○スクールサインの有効活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールサインや心のアンケートによるいじめの早期発見と迅速な対応</li> <li>・いじめ問題対策委員会年3回開催</li> <li>・生徒指導部や教育相談と連携するとともにいじめ問題対策委員会を適宜開催し、情報や対応策を全員で共有</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>●スクールサインの目的・意義をしっかりと説明し、100%に近い登録率となったことでいじめの早期発見、相談体制づくりに繋がった。</li> <li>▲生徒の様子や声に対する受け止め方や対応に多少差が見られた。今後は、更なる連携と情報共有が必要である。</li> </ul>
	いじめをなくす取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇いじめ防止関連の各種行事等の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○行事等を通して、いじめ防止の認識を深める。</li> <li>○いじめ問題対策委員会の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会と連携した「いじめ防止全校集会」の実施</li> <li>・「心のアンケート」年3回の実施</li> <li>・いじめ解消率100%</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学期1回の「心のアンケート」結果をもとにいじめ問題対策委員会を実施した。学年・担任と情報共有を行うことで迅速に対応することができ、いじめの解消率100%を達成することができた。</li> <li>▲心のアンケートではいじめを訴えていないものの気になる回答をしている生徒もいたことから、担任と連携し状況の把握に努め、迅速な対応を行うことができた。表立った部分だけでなく、潜在的なところまで、様々な角度から生徒の様子を観ていく必要がある。</li> </ul>
保健安全	保健教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇保健指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○感染症拡大防止のための取組の充実</li> <li>○健康教育の充実</li> <li>○健康診断実施後の治療率の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手洗い・換気・登校前の検温の習慣化に向けた指導</li> <li>・きめ細やかな毎日の健康観察の実施</li> <li>・生徒を対象とした性教育講演会、薬物乱用防止教育の実施</li> <li>・AED、心肺蘇生法についての職員研修の実施</li> <li>・治療勧告書の発行</li> <li>・受診が済んでいない生徒の個別指導</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>●感染症拡大防止のため、毎日の個別の健康観察を行うことで、生徒の健康状態の把握に努めることができた。</li> <li>●変遷する感染症の動向について、保健指導・保健便りなどで周知を行ったことで、生徒アンケートの結果では97%の生徒が毎朝の検温を確実に実施しているという回答が得られた。</li> <li>▲感染症対策を講じた講演会の実施形式に課題(録画視聴や密回避の会場設定)が残った。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>◇心身の健康問題を抱える生徒への支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○組織的な支援の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健室入室状況の記録分析</li> <li>・担任、特別支援教育コーディネーター、教育相談担当、スクールカウンセラーとの生徒情報の共有</li> <li>・外部の専門機関との連携</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>●心的な問題を抱える生徒について、関係職員で情報共有をすることで、機会を逃すことなく専門機関につなげることができた。</li> <li>▲SSWの利用を申請したケースにおいては、継続的な関わり・支援に繋がっていないものがあり、SSWの効果的な活用のための定期的なケース会議に取り組む必要があった。</li> </ul>
	環境教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇学校版環境ISOの取組</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○安全・安心な環境整備</li> <li>○掃除用具の整理・整頓</li> <li>○節電に向けた取組</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・備品の毎日の消毒</li> <li>・消毒薬等衛生用品の管理</li> <li>・各学期、美化週間、安全点検の実施</li> <li>・環境委員会による掃除用具の点検</li> <li>・年2回、エアコンフィルターの掃除</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>●感染拡大防止のための衛生用品を状況に応じて準備し、安心して登校できる環境作りに組織的に取り組むことができた。</li> <li>▲休校期間や、他の学校行事との関係で計画的な美化週間・安全点検の設定ができず、生徒の意識向上への動きかけの機会を逸してしまった。</li> </ul>
	危機管理体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇職員の人権対応能力の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○職員研修や不祥事事例の具体的な事例紹介により常に危機管理に対する意識を持たせる。</li> <li>○事件・事故への適切な対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理マニュアルの整備</li> <li>・具体的な不祥事事例の職員研修実施</li> <li>・事件、事故、不祥事事例は、その都度全職員に紹介する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事件、事故、不祥事等に関してはぐらいたる事例等を出し危機管理に対する意識向上に努めることができた。</li> <li>▲危機管理マニュアルについて、防災部分のところで改善が必要な箇所であったので、次年度に向けて取り組む必要がある。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇自然災害に対する対策の確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自然災害に対する危機意識の向上と訓練の実施</li> <li>○災害時の生徒の引き渡し方法を、生徒・保護者に周知する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然災害を想定した避難訓練の実施</li> <li>・保護者向けマッチコミメールの定着</li> <li>・学校ホームページの活用</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>●要項配布の制限、放送設備を使わず拡声器で避難誘導、防火扉を使用するなど実践的な避難訓練を実施できた。</li> <li>▲避難訓練を行う際に、生徒・職員への危機意識向上のための取組みが不足していた。防災マニュアルに状況に合わせて避難行動、避難指示ができるよう見直しをしていく必要がある。</li> </ul>	

特別支援教育	生徒理解の充実	◇生徒一人一人の教育的ニーズを把握した支援体制の整備	○生徒理解研修をととし、共通理解を図る。 ○個別の教育支援計画および個別の指導計画の作成、活用	・気になる生徒について、担任および授業担当者等からの情報収集 ・特別支援教育・教育相談委員会において、諸計画の検討 ・特別支援教育コーディネーターによる保護者面談の実施 ・スクールカウンセラーによる相談活動の推進	A	●多くの先生方から、多角的な視点で情報を提供いただき、SCによる生徒面談やストレス対処教育、ケース会議の実施につなげることができた。 ▲発達特性等の診断がある生徒について、個別の教育支援計画および個別の指導計画の作成はしているが、十分に活用できていない。
	外部との連携	◇生徒一人一人の教育的ニーズに応じた支援策の検討	○小・中学校や地域の高校、支援学校との情報交換 ○関係機関にいつでも相談できる体制づくり	・地域の研修や情報交換の場への積極的参加、情報収集 ・他の高校からの積極的な情報収集 ・入学前中学校訪問の実施 ・支援策についての助言を得る等、関係機関の積極的活用	A	●地域の会議に参加し、高校間だけでなく、中学校の先生方や支援学校の先生とも情報交換を行い、生徒支援に生かすことができた。 ▲コロナ禍ということもあり他校での活用も増えているためか、SCやSSWをタイムリーに活用できない状況があった。
地域連携 (コミュニティ・スクールなど)	地域との連携・協力	◇地域や小・中学校との連携の強化と情報の共有	○地域や中学校への情報提供と交流に努め、本校教育への理解と協力を得る。 (保護者アンケートによる肯定的評価80%以上)	・小中学校との交流(合同部活動・職員間交流等)を実施 ・ホームページの充実 ・中学校に本校用の広報掲示板の設置 ・地域連携対策事業(学校運営協議会)の実施	A	●学校運営協議会発案の「中学1年生の高等学校訪問(体験入学)」が市内の全中学校対象に実施される予定。 ●ホームページの更新頻度が上がり、内容も向上していると感じている。 ●地域からの協働活動の依頼が増加した。 ▲個別の小中学校との交流が少なかった。
文科省指定事業の推進	「ひと・もの・資源の宝庫」上天草で未来を切り拓くリーダーの育成	◇地域人材育成の力 ◇地域人材育成の力 ◇地域人材育成の力 ◇地域人材育成の力	○学校設定科目の効果の検証および改善 ○大学や研究機関および中学校との連携強化 ○「聞く」「話す」「表現する」プロジェクトの取組の推進	・授業実施のPDCAサイクルを確立する ・市内各中学校へのエキスパート生徒派遣 ・カリキュラム開発等専門家の活用による、生徒と大学及び研究機関のマッチング作業の実施 ・プロジェクトの基本方針を明確にし、各教科で工夫できる環境をつくる	A	●K#Amaxの取組みと連動し、市内全中学校に、本校生徒がエキスパート生徒として、アドバイスをを行い、中学校の生徒研究発表会を上天草バザールで実施できた。 ▲「聞く」「話す」「表現する」プロジェクトで作成したルーブリックをうまく活用できなかった。

4 学校関係者評価	<p>令和3年2月26日に開催した学校運営協議会並びに学校関係者評価委員会での御意見。</p> <p>(1) 中学校での起業家教育の取組の際、高校生にアドバイスをもらい、中学生たちも喜んでいて、在籍する中学生のうち半数以上が上天草市以外に進学している。上天草高校の取組等については、生徒や保護者も知らないのではないか。中学1年生を対象にした体験学習は実施して欲しい。保護者会やPTA総会等でのPRや説明をしてもよいのではないか。</p> <p>(2) コロナ禍で予定通りに進まない中、評価が高くなっていることは、これまでの取組の成果である。エキスパート生徒派遣について、中学生からは上天草高校生の助言を活用したいという意見があった。中学校の先生も、中学生と高校生の交流は良かったという意見がある。</p> <p>(3) 就職状況について、天草管内での就職者数が少ない。インターンシップもあると思うが、アルバイトを推進してもよいのではないか。働き手が少なく困っている会社もある。</p> <p>(4) 上天草高校への入学者の確保は、市としても課題である。学校評価でも、生徒の評価も高い。そのようなことを中学生も共有させたい。</p> <p>(5) 認知症サポーター養成については数年前から取り組んでいる。福祉科の生徒だけでなく、学年単位・学校単位での受講を検討して欲しい。</p> <p>(6) 中高の連携の重要性を感じる。以前から、上天草市の生徒の5割は天草以外に進学している。起業家教育での中学生へのアドバイスについては、教員からも好評である。年に複数回実施するなど、中高生の交流を増やしてはどうか。</p> <p>(7) 成果はできていると思うが、それが生徒数増加に繋がっていないようである。小学6年生段階では、志望校は決まっていない。小学校でも、上天草高校の魅力伝えて欲しい。今年度はコロナの影響で交流ができなかったが、次年度は交流を行いたい。家庭学習への取組について、小学校でもできていない。</p>
-----------	--

5 総合評価	<p>学校評価における評価項目のうち、「よくできている」とするA評価は全30項目中27項目と大半を占め、前年度に引き続き増加している。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、年度当初の休校、学校再開後の教育活動の制限等もあり、当初予定していた学校行事の中止や縮小等を行ないながら、可能な範囲内で取り組んできた。多くの項目で高い評価を得たことは、課題意識をもって学校運営がなされているということであり、総合的に見て、本年度の学校目標は概ね達成されたといえる。今年度も、コミュニティ・スクールの取組やスーパーグローバルハイスクールの取組を継承しつつ、文部科学省指定2年目になる「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力化型)」にも積極的に取り組んでおり、本校の魅力化と学校目標の達成に大きな影響を与えていると考える。</p> <p>一方、市内小中学校に在籍する児童生徒、教職員及び保護者に対する本校の魅力や教育活動等の広報活動や情報発信については、積極的な取組を求める意見もあり、次年度の課題と考えられる。</p>
--------	---

6 次年度への課題・改善方針	<p>令和3年2月26日に開催した学校運営協議会並びに学校関係者評価委員会での御意見を踏まえ、コミュニティ・スクールやスーパーグローバルハイスクールの取組を継承しつつ、文部科学省指定3年目(最終年度)になる「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力化型)」を本校教育活動の中心に据えながら、次年度の課題・改善方針として、次のように取り組む。</p> <p>(1) 学校の取組について、保護者や地域、地元小中学校へ情報発信を行い、本校の教育活動の魅力発信を充実させる。</p> <p>① 学校行事だけでなく、日頃の学校生活の様子をタイムリーにホームページに掲載し、更新頻度を上げることで情報発信を行なうことができるよう、HP更新について操作方法をマニュアル化し、多くの職員が情報発信できるようにする。</p> <p>② 市内全中学1年生を対象にした「高校訪問学習」や小中学校との交流活動を通じて、地元中学生の本校教育活動への理解を深める。また、市内中学校教職員や保護者に対し、本校の取組について説明する方法等を検討していく。</p> <p>③ 育友会総会や体育大会、文化祭等の学校行事への参加者数の増加させるために、早めに周知し、積極的な参加を促す。</p> <p>(2) 「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力化型)」の文科省指定終了を見据えた地域とのつながりを構築する。</p> <p>上天草の良さや課題を深く理解し、上天草を支える人材育成のために、地域との協働体制を構築し、地域人材の活用や地域とのつながりを、組織全体でつづけていく。</p> <p>(3) 1人1台端末整備を利用したICT機器の活用充実 新学習指導要領のスタートを見据え、ICTの活用や主体的・対話的で深い学びの視点を重視した授業を推進し、「聞く」「話す」「表現する」プロジェクトを推進していく。</p> <p>(4) 上天草高校の魅力発信を入学者の増加につなげる。 文部科学省指定「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力化型)」の更なる充実と、コミュニティ・スクールの取組やスーパーグローバルハイスクールの取組における全教職員の協働体制により、上天草高校の教育目標「地域と協働し、地域社会に信頼される学校」を実現し、生徒募集につなげていく。</p>
----------------	--